

復興支援フォーラムニュース No. 61

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

<第58回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

さる2月20日、第58回ふくしま復興支援フォーラムを開催しました。

椿淳一郎氏（名古屋大学名誉教授・米沢市出身）から、「汚染土壌の減容化について」のテーマで報告をしていただきました。24名の参加者があり、活発な質疑応答がなされましたが、同時に、以下のようなご意見等が文書で提出されました。参考にしてください。

~~~~~

★ 今、私の所では、仮置場でモメている。先生の技術によれば、仮置場がなくてもよいことになる。先生の技術を導入すれば、地区のモメごともないことになると思う。（R.N）

★ 率直な、飾らない話し方でよかった。内容は興味深かったが、JAEA や県の対応は、ああ、やっばりという話だった。（Y.I）

★ 技術的な話を、わかりやすいスライドで説明されていたので、（除染の）すごく理解が深まりました。ありがとうございました。（S.T）

★ 大変、興味深いお話を伺いました。福島市内で実証できる機会を得て欲しいと思います。（T.T）

★ 新しい角度の内容で、大変興味がわきました。議論の中にも出ましたが、使用場面が今後出てくるように思いました。研究費審査の内容もよくわかり、うなづけるものでした。

★ 我が家の庭にも除染した土が置かれているが、かなりのスペースを要するので、減容化の必要性は痛切に感じている。ただ一方で、濃縮した泥しょうは高汚染となるので取り扱いが難しくなると感じた。ともあれ「応用なき基礎研究などはない」という先生の信念には強く共感した。（T.H）

★ 「現場に役立つ基礎研究」という言葉が、心に残りました。（Y.I）

★ 放射線を発する汚染土壌の減容化技術について、実証実験の結果を通して、良く理解できました。今後の、さらなる実用化に向けての取組みに期待いたします。（K.F）

★ 汚染土壌の減容化の具体例を知ることが出来ました。環境省のガイドラインから外れた優れた技術が、多数うもれているのではないかと想う内容であった。（T.S）

★ JAEA は、想像もしないような友達サークルムラ社会。福島県の事業委員会も、住民の為に事業を採択しているとはいいい難い。いろんな利害関係がからみあっているが、本当に住民のためになることを、県や国は、とりあげてほしいと思う。(K.A)

★ 椿先生が開発された減容化装置が、実用に供されることを望みます。(T.O)

★ 除染が済んだ後の「ゴミ」を街のいたるところで見ると、考えることを止めたくなくなるが、本日の話やその後の話し合いを聞いて、いくらか日はありがとうございました。(S.S)

★ 大量の汚染土壌の減容化を実用化することが、いかに難しいか分かりました。他メーカーのもくろみに対する見解も、面白く聞かせていただきました。(N.O)

★ 土壌汚染についても悩ましい現実があることをあらためて感じました。(Y.T)

★ 減容化技術の評価が、適正になされていないということは驚きです。(K.S)

=====  
【予告】

第60回 ふくしま復興支援フォーラム

2014年3月18日(火) 18時30分～20時30分

今井照氏(福島大学教授)

「自治体再建・原発避難と『移動する村』」

於) 福島市アクティブシニアセンター「AOZ」大活動室1

=====  
第61回 ふくしま復興支援フォーラム

2014年3月27日(木) 18時30分～20時30分

伊澤史朗氏(双葉町長)

「双葉町の現状と復興の課題」(仮題)

於) 福島市 市民活動サポートセンター(チェンバおおまち3F)

=====  
第62回 ふくしま復興支援フォーラム

2014年4月10日(木) 18時30分～20時30分

針生達矢氏(労働基準監督官)

「震災下の労働問題について」

於) 福島市アクティブシニアセンター「AOZ」大活動室1

福島における商業・サービス業の復興再生を目指して～マツバヤの経験から～  
松原 茂

株式会社マツバヤ  
会社の歴史

|              |                                                                                                              |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1927年（昭和2年）  | 双葉郡浪江町に日用雑貨店として創業。                                                                                           |
| 1952年（昭和27年） | 卸部門の設立。                                                                                                      |
| 1964年（昭和39年） | 株式会社化。                                                                                                       |
| 1966年（昭和41年） | 浪江町駅前に売場面積200坪でオープン。総合小売業へ。                                                                                  |
| 1971年（昭和46年） | 家電・雑貨売場160坪増床、売場面積360坪に。                                                                                     |
| 1979年（昭和54年） | 6月 協同組合サンプラザの核店舗として出店。<br>9月 浪江駅前店はホームセンター「マイプラザ」としてオープン。                                                    |
| 1983年（昭和58年） | サンプラザ敷地内に別館4店舗をオープン。<br>マツバヤ館、サンフレンド館、サンギフト館、サンデンキ浪江店                                                        |
| 1991年（平成3年）  | サンデンキ富岡店オープン。                                                                                                |
| 1992年（平成4年）  | マイプラザ富岡店オープン。                                                                                                |
| 1993年（平成5年）  | マイプラザ浪江店移転オープン。                                                                                              |
| 1995年（平成7年）  | 9月 サンプラザ本館、増床リニューアル。<br>拠点店舗数8店、合計売場面積約2500坪に。                                                               |
| 2002年（平成14年） | 12月 a u ショップ浪江店オープン。                                                                                         |
| 2004年（平成16年） | 2月 a u ショップ富岡店オープン。P C スクール浪江店、富岡店。                                                                          |
| 2007年（平成19年） | 12月 カーブス（女性向けフィットネス）浪江店オープン。                                                                                 |
| 2008年（平成20年） | 4月 カーブス原町店オープン。                                                                                              |
| 2009年（平成21年） | 4月 プラスゲオ（レンタルAV・ゲーム）浪江店オープン。                                                                                 |
| 2010年（平成22年） | 12月 プラスゲオ富岡店、A u ショップ富岡増床オープン。                                                                               |
| 2011年（平成23年） | 3月 東日本大震災発生。原発災害により全店休業。<br>7月 カーブス原町店再開オープン。地域ブログポータル開設。<br>11月 ネットショップ開設。                                  |
| 2012年（平成24年） | 2月 カーブス相馬店オープン。<br>3月 田村市にて「サンプラザふねひきパーク店」オープン。<br>店舗面積500坪、売場面積430坪。<br>7月 カーブス二本松店オープン<br>10月 サンプラザ相馬店オープン |
| 2013年（平成25年） | 2月 サンプラザ二本松店オープン<br>3月 カーブス宮城白石店オープン<br>6月 カーブス宮城角田店オープン<br>9月 カーブス本宮店オープン                                   |

## 株式会社ワコール 2012年3月社内報記事

「この町で、仲間たちと、新しい未来をつくっていく」。

2011年12月15日、マツバヤさまの松原社長は、この広く澄み渡った青空見上げながら、強い決意を胸にしていました。震災から数えて、9カ月と5日目。ずっと願い続けてきた実店舗での販売会の日・・・新しい未来が始まる日だったのです。

この日、ここ福島県田村市『ふねひきパーク』には、古くからこの町で暮らす地元の皆さんや、近くの仮設住宅に移り住んできた皆さんなど、大勢のお客さまで賑わっていました。ワコールの下着やナイティをはじめ、婦人服・マフラー・帽子・バッグなどが並べられ、特別催事が開催されていたのです。肌ざわりのいいパジャマや、暖かくて機能性のある肌着など、ワコールの良質な商品が大変喜ばれたといえます。

実はこの特別催事は、「マツバヤさまの店舗復活に向けて、少しでもお力になりたい」というワコールからのお声掛けがきっかけで実現しました。「商品を提供いただいたワコールさんには、本当にありがたい気持ちでいっぱいです。3日間限定ではありましたが、私たちにとっては大きな一歩。“きっとマツバヤの未来は可能性にあふれている”、そう思わせてくれました」

(株式会社マツバヤ 代表取締役社長 松原茂氏)

美しく広大な山々、清らかな川、白波が立つ紺碧の海など、豊かな自然に恵まれた福島県浪江町。そこに住む人たちは穏やかで優しく、とても平和で住みよい町でした。1927年、マツバヤさまはそんな浪江町で創業しました。初めは日用雑貨店として商売を始めましたが、「地元の皆さんがもっと豊かな生活を送れるように」と少しずつ取り扱う商品を広げ、1979年にはショッピングセンター『サンブラザ』をオープン。その後も、地域の皆さんからの熱い要望を受けて、ホームセンターや家電量販店、Auショップやフィットネスクラブと事業を拡大し、浪江町を中心に8店舗を展開しました。

親しみある温かい接客。一人一人の声にお応えするきめ細かな対応。地元を愛する思い。マツバヤさまは何十年もかけて地域との絆を深めながら浪江町の生活を支え続け、この町にとって欠かすことのできない存在となっていました。

穏やかで幸せなこの生活はこれからも続く。誰もがそう信じていました。

2011年3月11日、東日本大震災が発生。震度6強と大きく揺れたものの、店内は什器が倒れる程度で、幸いにも建物自体への被害はなく、電気・水道・ガスといったライフラインへの影響もありませんでした。さほど大きな心配もないだろうと思っていましたが、家族の安否を心配する従業員の皆さんのことを考え、いったんその日は臨時休業とすることに。「一日片付ければ、すぐに営業再開できると思います。皆さん、明日は通常通り出勤してくださいね」。まさかこれが、松原氏が従業員の皆さんに掛ける浪江町での最後の言葉になるなど、このときは夢にも思いませんでした。

翌日、原発事故が発生。福島第一原発から9kmの場所にあったマツバヤさまも、避難を余儀なくされます。「あの日から、何もかもが変わりました。特別に良い暮らしをしていたわけではないけど、ちゃんとした家があって、安定した生活があって…それが一瞬にして全てなくなりました。一緒に育った地元の友達も、共に支え合った会社の仲間も、マツバヤを頼ってくれたお客さまも、全国に散ってしまいました。浪江町にも、あの幸せな日々にも、もう戻ることはできません」(松原氏)。

松原氏も家族と一緒に、南相馬市から飯舘村や山形県を経て、最終的には新潟県の避難所に身を寄せ

ました。この生活はいつまで続くのか。これからどう暮らしていけばいいのか。予期せぬ大災害に、誰を責めることもできない。自分がどこに進めばいいのかも分からない。被災者の皆さんは、ただただ耐え忍ぶ避難生活を送っていきました。

浪江町の川沿いの桜並木（左側の写真）。松原氏が大好きだった場所の一つ。「つぼみから花が咲き始め、そして散っていく桜。この時期、よく見に行っていたのを思い出します。桜の咲く時期には、花火大会が開催されました。大きな花火は打ち上げられませんでした。満開の桜と花火のコラボレーションは毎年の楽しみでした。日常の中にあつたこの景色も、今となってはもう見ることはできません」



真ん中の写真は被災前の店舗。右側の写真は仮設住宅での移動販売。

震災から3カ月経ったころ、松原氏は新潟に家族を残し、一人郡山市のアパートに移り住みます。郡山市にマツバヤ仮事務所を立ち上げたのです。5月に開催した従業員集会をはじめ、幹部スタッフたちとも何度か今後の会社の方向性を話し合いましたが、原発災害を取り巻く状況の不透明さから、先が見通せない状況が続きました。地域の事業者の間でも「賠償問題がはっきりしない中で、無理して今事業を立ち上げる必要があるのか」「いや、経営者として前に進むべきだ」などと意見が分かれ、「マツバヤは今後どうしていくべきか」、松原氏自身も非常に悩んだといいます。

そんな松原氏を引っ張ってくれたのは、「俺はやる」と立ち上がった数名のスタッフたちの存在でした。喪失感を抱えて何カ月も避難生活を送るうちに、「このままでは終わりたくない！」という思いに駆られるメンバーが出てきたのです。一緒にやってくれる仲間たちがいる。このことが松原氏にとって一番の励み・原動力に。再起への決意を固めます。

同じ思いを持ったスタッフが、全国各地から少しずつ少しずつ集まりだしました。事業再開に向けて議論を交わすうちに、「店舗を復活させたい」という声が上がります。2011年夏、店舗再開に向けて始動します。

二本松市や郡山市、相馬市や南相馬市などでの物件情報の収集やリサーチ。新たな事業の可能性を模索しながら、できることをとにかく実行しました。仮設住宅へのカタログ販売と移動販売会、インターネットショップなど、思いつくままに挑み続けます。

特に仮設住宅では、「早く元の生活に戻りたい」と切に願う皆さんの役に立ちたいと、一人一人から欲しい物をお聞きして届ける“御用聞き”も率先して行いました。中には、「ワコールの肌着がほしい」とおっしゃる方もいたそうです。「震災前と同じものが使える」ということが、避難されている皆さんの喜びにつながったといいます。

再び商売できる喜びを噛みしめながら接客するスタッフたち。笑顔でお買い物され、生きる意欲を少しずつ取り戻されるお客さま。この光景を見つめながら、松原氏は確信します。「どこへ行っても、どんな形でも、お客さまとつながることができる。店は、人がつくっていくものなのです」（松原氏）。

2012年3月に『ふねひきパーク』の2階で本格的に店舗をオープンさせることが決まりました。

この場所に決めた理由の一つは、売場面積430坪という広さ。そして「一緒にやっていきましょう」という『ふねひきパーク』さんからの熱い申し出と、全面的な協力体制。もう一つはこの地域の“買い物環境”。「この町に出店しなければ」という使命感を感じたそうです。

「この地域には、おしゃれを楽しめる化粧品や衣料品が充実したお店がほとんどありません。商店街でもシャッターを閉めてるお店が多く、あるのはドラッグストアかスーパーぐらい。ファッション性・機能性の高い商品をきちんとした接客をするお店もほとんどありません。

だからこの町に、住民の皆さんに生きがいや喜びを与えられる店舗、また生活に欠かすことのできない店舗をつくりたいと思っています。私の信念は、“小売業は地域密着であるべき”というもの。長年、浪江町という町に密着し、地域の期待に応じてきたマツバヤなら、この町の皆さんの生活を豊かにするお手伝いができる・・・そう信じています。お年寄りも多いので、“御用聞き”にも積極的に挑戦したいです。

私たちはこれから、この町との絆をゼロから築き上げていきます。お客さま・お得意先・スタッフがつながることで芽生えたマツバヤの新しい可能性。確かに時間は掛かるでしょう。それでも、この先には輝かしい未来が待っていると信じたいですね」(松原氏)。

松原氏の目は真っ直ぐ前を見つめていました。新しい町へ移っても、マツバヤさまが変わらず持ち続けるもの・・・、それは“地域と共に歩む”“人との絆を大切にする”こと。これから、この町に新しい店舗をつくります。住民の皆さんが店をつくり、店が地域の生活を支えるのです。かつて浪江町でそうしてきたように。



2012年3月8日オープン「サンプラザふねひきパーク店」。